

第四紀後期河成段丘面を指標にした東北日本中部地域の隆起速度と短縮速度の試算

Rates of regional uplift and crustal shortening inferred from Late Quaternary fluvial terraces across the central NE Japan arc

松浦 旅人[1]

Tabito Matsu'ura[1]

[1] 産総研 活断層研究センター

[1] Active Fault Research Center, GSJ/AIST

東北日本中部地域内陸部において、第四紀後期に形成された河成段丘を用いて地域的隆起速度と短縮速度を試算した。河成段丘はテフラとの層位関係、 ^{14}C 年代測定値をもとに酸素同位体ステージ(MIS)に対比される。最新の堆積段丘面と、一つ前の堆積段丘面の比高を隆起量と読み替えるTT法(吉山・柳田, 1995)による地域的隆起速度は、外帯で約0.17m/kyr、内帯で約0.28m/kyr前後と推定された。地域的隆起が地殻厚化に伴うアイソスタティック隆起によるものと仮定すると、短縮速度は外帯で約0.26cm/yr、内帯で約0.40cm/yr、短縮歪み速度は外帯で約0.03ppm/yr、内帯で約0.05ppm/yrと試算される。これら第四紀後期の短縮速度、短縮歪み速度は、最近数万年間のGPSデータ解析によるものよりも明らかに小さい。